

1, 各社の状況

内容	内容詳細	派遣施設(予定)	従事者	期待される効果	課題	その他
新規廃棄ベッド業務	新規案件が大量にあるため納品され次第開始(毎週月曜日)		3	突発的な業務による忙しい時に、通常入っている福祉事業所と連携できる福祉事業所があることにより企業にとってメリットとなる効果があると思われる。その際、福祉事業所同士の日常時からの連携が必要。	本工場とは別の場所で行っておりため基本的に社員がおらず、施設スタッフが覚えて作業をこなせるまでには時間がかかるためスポットで入るのが難しい。また、できれば既存の慣れている施設に業務を預けたい意向あり。	・すでに入っている福祉施設との兼ね合いがとても難しい ・作業内容が安全管理と細かい作業が多く事前をお願いしていた施設がキャンセルとなり施設調整からやり直しとなった。
既存清掃業務	毎日事務所にはいる業者の代わりに清掃を行う			企業の本業である専門性の高い業務にかかわるには、企業全体の障がい者理解が必須となる。その為、本業以外の事務や清掃などで理解を進めることでタッグを組める状態にする。また理解が進むことで雇用がすすむきっかけとなる。	専門性の高い施工現場において障害者とタッグを組むには障害者理解が現場にて進んでいないと難しい	現場から反対があり施工関係の業務にかかわることは今回できず。ただ、外注にだしている清掃をやってみてよければ、雇用したい(雇用率が満たしていないため)⇒既存業者との調整が難しい
新規DX案件	DXシステムの入力業務に入る前の準備(スキャン業務)とデータ入力を行う。8000件程度あり、工程を工夫することで大人数が短期で取り組む連携を行う		5	本業である不動産業務のデータ化は本業での社員に負担をかけずに一時的に人数が必要な業務として障害者施設と組むことに効果大。特に、社内で行うスキャン業務と在宅や施設内でも遠隔でできるデータ入力を切り分けてできるため、障害者施設側にも幅広い可能性がある。	個人情報保護の観点における作業動線の組み立てに工夫が必要。新しい業務のため担当がつかず部長が担っているため判断が早くありがたい一方負担感がありそうであり、障害者理解がすすむことによりこの件も解決すると思われる	システム導入に遅れがあり、まだ開始できていない。
新規開発案件	新たなシステムのテスト利用		1	障害者の人材活用として、システム等IT関係にも精通している人材がおり活躍できる場として効果あり。業務内容は開発しているシステムを障害者目線で利用してのテスト利用を行い、バグや不具合を報告する業務。	高度な知識が必要なため、限られた人材のみがマッチする業務。ただ、人材の掘り起こしや教育訓練を組み合わせることで人材育成から関わることで人手不足業界の助けになりえる。	雇用を見据えながら本業に関わらせていただくことに。障がい者の才能や教育にも関わっていただいている。
パン製造補助	パン工場における、袋詰め作業を行う。		1	パンの袋詰めにかかわることで、業務の効率化をはかれる。また、企業と業務連携することで福祉側がもっている販売ルートを活用し互いにWINWINな関係になりえる。	衛生面の管理が必須であるが、それ以上にパン工業は時間が早く(4時〜)対応できる事業所に限られる。今回は袋詰めのみということで2サイクル目の8時〜となったが実際は4時は難しくとも7時〜が理想的。	パン工場です人手が必要な袋詰めを行う。作業場が狭くスタッフと2名体制で行う。
貯水槽点検・清掃補助	マンション等の貯水槽の点検時の補助と清掃		2	マンションに備えられている貯水槽の内外の清掃と道具を受け渡す補助業務であるが、外側で行う分には安全でスムーズに行えた。市内多くの現場があるため、地域でエリア分けを行いエリアごとに施設とタッグを組むことでより効率化できる。また、障がい者自身が必要な資格を取得することで雇用につながったり専門現場を担える可能性もあり。	場所が毎回かわるため初めはその現場に合わせた状況把握から始まる。作業内容は同じため、場所に慣れることで業務のスピードがあがる。ただ、貯水槽の中や周りは狭く、暗いため、安全管理ができる人が必須。そのため、不安性が高い人や多動な人はマッチングが難しく業務や人を限定することで可能になる。	社長の理解や想いが現場にも伝わっており、とてもやりやすいタッグを組むことができた。社内の理解がすすむことが何よりも障害者タッグ事業の成果につながると感じた。
消火器点検補助	マンション等の定期消火器点検補助と清掃		2	専門点検員の同行指導のもと、点検補助業務を行う。数が多く、時間も体力も必要な内容であるがルーティン業務の為障害者の得意とマッチしやすい。以下、上記内容同様エリアごとや専門性を高めることでよりよいマッチングとなる。	点検業務はすぐに慣れることができ、スピードもあげることができた。一方点検責任者がいる元でしかできないため、効率をあげるには、施設職員や障害者自身が点検員の資格を取ることが今後の可能性に広がる。	上記に加えて、初日からスムーズに進み予定されていた現場に加えて他もできるねという前向きな内容となった。現場に入る前にも事前の研修をしていただき、互いによりよい状態を探れるよいタッグとなった。
内容検討中						に相談したがソフト開発は簡単にはできず今回本業での関りはなしにし、他の業務(清掃や簡易事務)を打診中

2, 各社とのマッチングを行う中で現段階でのまとめ

今回業務の切り出しをする中で、すでに福祉施設へ委託しているケースや現場の理解が得にくいという事があり、本業にかかわる業務ではなく普段社員が片手間でやられている内容や外注している業務、また、時期よっての大口案件(雇用をするまでもない一時的な人手不足)でのマッチングになっている。今後この事業を行う中で、今回のマッチング内容は「一時的に人が欲しい」や「社内業務改善の糸口(働き方改革)」そして、「障害者への理解をすすめる(=雇用へ一歩目)」に適していると思われる。現段階では予測した需要にマッチしていると思われる。一方、イレギュラーな案件であるがゆえに企業の中でも担当者を見つけることが難しく上層部(経営者や部長級の方)が担当者となっており、企業としての指示命令は明確であるが現場サイドとの連携がとりにくい。今後これらを解消すべく業務提案書メニューを豊富(実績の共有など)にしていくことなど改善策が必要と感じる。